

第5回福島県現代詩集賞の受賞者（今回は二名）を、次のとおり決定しました。

表彰式は2022年6月19日(日)13時15分より、郡山市ビッグアイ7階 大会議室1で執り行います。

《福島県現代詩集賞》

作者 添田恒夫 作品 本が見つからない

一般公募（当会非会員） 福島県須賀川市在住

作者 小林真代 作品 滝の坊坂

福島県現代詩人会 会員 福島県いわき市在住

《 受賞作品 》

本が見つからない 添田恒夫

本が見つからない
かつては本棚の
どの段の右から何番目に
その本があると
ちゃんと覚えていたのに

本が見つからない
田舎の町の小さな書店の文庫本は
シンチョウとカドカワと
そして少しのイワナミと
どこにジイドがありヘッセがあるかを
すべて諳んじていたはずなのに

本が見つからない
かつての書齋は
やがて娘の部屋となり
今では孫の寝室となり
愛書たちは
奥へ奥へと追いやられ

本が見つからない
国文・中文・外文と
詩・小説・短歌諸々と
ちやんと分類して
それらはあつたはずなのに

あなたが見つからない
かつてあなたはあんなに若々しく
澆刺として輝いていたはずなのに

そしてわたしも
あんなにも夢多く
春秋に富んでいたはずなのに

本が見つからない
本が見つからない

滝の坊坂 小林真代

狭くて急な滝の坊坂
ゆらゆら下ってだるい足
なおだらだらと下れば肩が凝る
坂の真ん中あたり
女が険しい顔で

いつもいつも草を筆っていた
小さな庭の小さな家が
解体されてゆく

あのあたりに井戸があった
と思うところが二カ所
坂の下の方の井戸は数年前にしまわれて
井戸に寄り添うように立っていた
彫りかけの観音様も消えた
もう一つの井戸は

震災のとき近隣の人々に水を分けて
そののちは知らない
いまも坂の途中のどこかにあるはず

坂の辺の家はいつもどこか湿っていて
同じにおいがある
水は水を目指すということ
どんなに土を盛り石で塞いでも

埋め戻し、解体、といくつ言葉を重ねても
滝の坊坂下る水は
御廐稲荷をくすぐって夏井川まで
流れ続ける、落ち続ける

いつか
草を筆っていた女がふいと顔を上げて
通りすがりのわたしに
あんた、昼ごはん、何すんの、と訊いた
重たい首を回しバキバキ骨を鳴らし
草を掴んだ手を垂らしたまま汗も拭わず
わたしはなんと答えたのだったか
滝の坊坂だくだくだり
流れてゆく、落ちてゆく